新・福岡古楽音楽祭2019特別編！　もう一つメインコンサートを開催決定！

ファビオ・ビオンディ&エウローパ・ガランテ

2020 3/4［水］19:00開演

会　場　福岡シンフォニーホール
料　金　S席6,000円　A席4,000円（学生券2,000円）
演奏予定曲　ヴィヴァルディ：「四季」全曲 他

10月27日（日）10:00
一般発売開始!!

新・福岡古楽音楽祭2020のご案内

次回2020年の新・福岡古楽音楽祭のメイン期間は、
10月16日、17日、18日の3日間。アクロス福岡を会場に実施します。

テーマ

バッハの鼓動

～シギスヴァルト・クイケンが伝える古楽の真髄～

【講　師】
シギスヴァルト・クイケン、戸田薫（バロックヴァイオリン）、マルレーン・ティアーズ（バロックヴィオラ）
前田りり子（トラヴェルソ）、山本徹（バロックチェロ）、岩田耕作（古楽アンサンブル）　他

コンサート

〈アクロス・ランチタイムコンサート〉

シギスヴァルト・クイケンが弾くヴァイオリン協奏曲

10月16日［金］12時開演　福岡シンフォニーホール

【出演】シギスヴァルト・クイケン、戸田薫、廣末真也（バロックヴァイオリン）、マルレーン・ティアーズ（バロック・ヴィオラ）他

〈室内楽コンサート〉

J.S.バッハのソナタ名曲選

10月18日［日］15時開演　国際会議場

【出演】シギスヴァルト・クイケン（バロックヴァイオリン）、前田りり子（フラウトトラヴェルソ）他

〈古楽ステージ〉

10月17日［土］・10月18日［日］ アクロス福岡内

この情報は、2019年9月30日現在のものです。内容が変更になる場合がございます。

新・福岡古楽音楽祭2020の情報は、2020年春ごろ、新・福岡古楽音楽祭ホームページ、SNS等でお知らせいたします。今しばらくお待ちください。

新・福岡古楽音楽祭2019は以下のメンバーを中心に運営の準備を進めてきました。

実行委員/事務局　梅津教孝、加賀美弥子、左座武彦、志村聖子、澄川政博、中山美智子、廣末真也、村岡彩子、村山暁
サ ポ ー ター　綾部俊朗、有田美喜子、井上ともか、岩本あづさ、太田耕平、加来京子、川村聖子、城野公美子、田中雅美、田上朝子、永野善子、中村千佳、野田智子、平井佐和子、三久保佐和子、村山文子、本山いすず、森日出子、渡辺睦子
イ ラ ス ト　野田よう子

サポーター募集中！

来年度の音楽祭に向けて、事前準備から当日の運営業務に参加してくださる方を募集しております。ご関心がある方は、ぜひ事務局へお問い合わせください。あなたの特技を活かせるチャンスです！

《お問合せ先》新・福岡古楽音楽祭事務局
福岡県福岡市中央区天神1-1-1アクロス福岡西館2階（公財）アクロス福岡 事業部 事業企画グループ
kogaku.fes@gmail.com　TEL：092-725-9327　ホームページ http://www.kogaku.net

2019 新・福岡 古楽 音楽祭　FUKUOKA EARLY MUSIC FESTIVAL

もっと近くに! 25th アクロス福岡 ACROS Fukuoka

新・福岡古楽音楽祭2019

FUKUOKA EARLY MUSIC FESTIVAL 2019

2019.10/12［土］—14［月・祝］

～イタリアの風～

Vento Italiano

会場　アクロス福岡（福岡市中央区天神1-1-1）

主催　新・福岡古楽音楽祭実行委員会／福岡県／福岡市／（公財）アクロス福岡／（公財）福岡市文化芸術振興財団
後援　福岡県合唱連盟／福岡吹奏楽連盟

ごあいさつ

皆さま、新・福岡古楽音楽祭2019へようこそ！

元号が改まり令和になって初めての今年は、「イタリアの風」をテーマにヴィヴァルディを始めとする協奏曲や、オペラの誕生からヘンデルに至るイタリア歌曲の数々をお聴きいただきます。

思い起こせば当音楽祭の発端は30年前、平成となった初めての年、1989年4月に遡ります。有田正広さん率いる東京バッハ・モーツァルト・オーケストラの旗揚げ公演となった「福岡18世紀音楽祭」です。これを一過性のイベントに終わらせることなくアマチュア古楽愛好家も参加できる音楽祭として始まったのが、翌1990年の秋に熊本県小国町で開催された「おぐに古楽音楽祭」でした。九州・山口だけでなく大阪や東京からも古楽ファンが結集し、温泉に浸りつつ日頃鍛えた腕前や歌声を披露し合いました。私も一合唱団員として参加させていただいたのですが、そこで特に鮮烈な印象を受けたのは、大分から参加されていた波多野睦美さんのリュートソングでした。30年近くを経た今では古楽にとどまらず幅広いレパートリーで我々を魅了し各地から引っ張りだこの彼女ですが、今回久しぶりにお招きできることは個人的にも大きな喜びです。

また小国では音楽だけでなく、町長さんを筆頭に町役場の方々や、建って間もない研修施設「木魂館」のスタッフの献身的で心温まるおもてなしに心身ともに癒されました。1999年福岡に戻り、また新体制となって丸5年を経た当古楽祭、小国で体験したホスピタリティをうまく引き継げているかどうか、未だ心許ない今日この頃ではあります。

兎にも角にも令和となった秋の3日間、この福岡から古楽を通じた交流の輪がますます広がることを期待しています。

新・福岡古楽音楽祭実行委員会
委員長　村山　暁

新・福岡古楽音楽祭2019スケジュール

日程	内容		最大の時間帯	会場
10/12［土］	アクロス・ランチタイムコンサートvol.75「4人の名手による協奏曲の響宴」		12:00 開演	福岡シンフォニーホール（1階）
	古楽セミナー　合　唱		14:00～18:00	練習室（地下2階）
	マスタークラス	声楽、トラヴェルソ、リコーダー、チェロ	14:00～18:00	練習室（地下2階）
		オーボエ		円形ホール（1階）
10/13［日］	マスタークラス	声楽、リコーダー、トラヴェルソ、オーボエ、チェロ、チェンバロ、ハープ	10:00～16:00	練習室（地下2階）
		トランペット		円形ホール（1階）
	声楽ワークショップ		10:00～12:30	練習室（地下2階）
	古楽ステージ《第1部》		12:00～15:00	コミュニケーションエリア（1階）
	古楽セミナー　古楽アンサンブル（1日目）		13:30～17:30	練習室（地下2階）
	古楽講座　むかしの楽器		16:00～17:30	円形ホール（1階）
10/14［月・祝］	古楽セミナー　古楽アンサンブル（2日目）		10:00～12:30	練習室（地下2階）
	古楽ステージ《第2部》		10:30～12:30	国際会議場（4階）
	室内楽コンサート「イタリア歌曲集の魅力」		15:00 開演	国際会議場（4階）

プレイベント

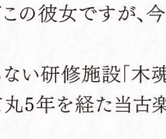
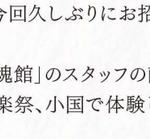
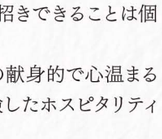
※好評のうちに終了いたしました。ご来場いただきありがとうございました。

アクロス福岡・フロアコンサートvol.489 特別編

10月3日［木］12：15開演　コミュニケーションエリア

出演　廣末真也（バロックヴァイオリン）、小池耕平（リコーダー）、西野晟一朗（チェンバロ）

演奏曲　カステッロ/ソナタ 第4番、第10番　ロカテッリ/二重奏曲 ト長調　ヴィヴァルディ/室内協奏曲 ニ長調 RV96

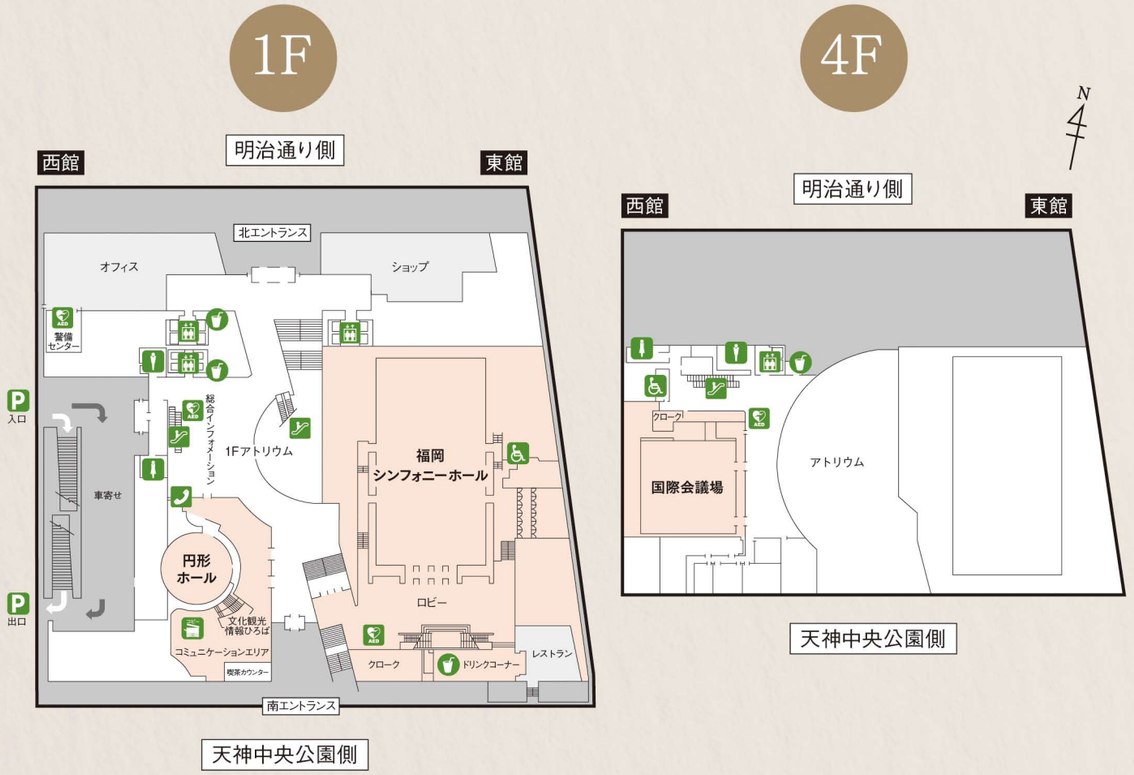
展示

新・福岡古楽音楽祭2019パネル展「音楽の街　てくてく旅（イタリア編）～ こーへー君が行く ～」

イタリアをテーマにした内容です。
どうぞお楽しみに。

10月7日［月］～14日［月・祝］10時～18時（最終日は16時まで）
アクロス福岡コミュニケーションエリア（1階）

フロアマップ



総合受付のご案内

《総合受付のご案内》こちらでプログラムの配布しています。受講生、聴講生の受付はこちらで行っています。

10/12［土］13:30～18:00	10/13［日］9:30～18:00	10/14［月・祝］9:30～17:00
円形ホール受付（1階）	円形ホール受付（1階）	国際会議場受付（4階）

聴講のご案内

《聴講の申し込み方法とご注意》

P8の講座はどなたでも聴講いただけます。但し当日の受付が必要です。下記ご一読の上、総合受付へお越しください。

［申込方法］

1.総合受付で聴講申し込み手続きの上、名札とアンケートを受け取ってください。
2.受付の時間は、12日13:30～、13日9:30～です。
3.受付後、該当の部屋へお越しください。会場の入室は5分前より可能です。スタッフの指示に従って行動してください。
4.セミナー会場では名札を必ず着用して下さい。後ほど申込票との照合を行いますので、お手数ですが、各会場でも必ず提示をお願い致します。
5.聴講終了後は、アンケートと名札を返却ください。

［注意］

●定員に達し次第、受付は終了します。
●入退室はセミナーの開始と終了時に限ります。
●部屋のサイズや受講生数により、聴講生の受付人数が異なります。
1.会場での飲食、蓋のない飲み物の持込は厳禁です。
2.入室前に携帯電話を機内モードまたは、電源をオフに設定してください。
3.講義の撮影・録音は厳禁です。
4.セミナー会場以外のフロア・部屋等への入室はご遠慮ください。
5. 1クラス50分間です。この間、レッスンの妨げとなるため、入退出はできません。予めご了承ください。
6.セミナーでは記録用に写真・ビデオ撮影を行う場合がありますので、ご了承ください。

アクロス・ランチタイムコンサートvol.75

4人の名手による協奏曲（コンチェルト）の響宴

2019年10月12日［土］12:00開演　福岡シンフォニーホール（1階）

Program

ヴィヴァルディ：チェロ協奏曲 ニ短調 RV405
Antonio Vivaldi（1678-1741）/ Cello Concerto in D Minor, RV405
独奏：山本徹（バロックチェロ）

ヴィヴァルディ：リコーダー協奏曲 ハ長調 RV443
Antonio Vivaldi（1678-1741）/ Recorder Concerto in C Major, RV443
独奏：太田光子（リコーダー）

マルチェッロ：オーボエ協奏曲 ニ短調
Alessandro Marcello（1669-1747）/ Oboe Concerto in D Minor
独奏：三宮正満（バロックオーボエ）

J.S.バッハ：ブランデンブルク協奏曲第2番 ヘ長調 BWV1047
Johann Sebastian Bach（1685-1750）/ Brandenburg Concerto No. 2 in F Major, BWV1047
独奏：斎藤秀範（バロックトランペット）、太田光子（リコーダー）
三宮正満（バロックオーボエ）、廣末真也（バロックヴァイオリン）

出演

リコーダー：太田光子　　バロックトランペット：斎藤秀範
バロックオーボエ：三宮正満　　バロックチェロ：山本徹
古楽アンサンブル：コンセール・エクラタン福岡
コンサートマスター：廣末真也　ヴァイオリン：池田梨枝子、倉田輝美、城田恵、松岡祐美、水谷有里　ヴィオラ：松隈聡子、島田玲
チェロ：山田慧　コントラバス：武冨祐子　チェンバロ：西野晟一朗　リュート：太田耕平

※諸事情により記載内容が変更になることがありますので予めご了承ください。　※出演者のプロフィールは14〜15ページをご参照ください。

Program Notes　曲目解説 ——— 柿沼 唯（作曲家）

A.ヴィヴァルディ（1678-1741）
チェロ協奏曲 ニ短調 RV405

ヴィヴァルディのおびただしい数の作品（その数は450曲とも550曲とも言われる）の大部分は、様々な楽器のための協奏曲で占められている。これらは当時のヨーロッパで一世を風靡し、そのスタイルは「ヴィヴァルディ・タイプ」の名で、多くの聴衆のみならず、作曲家にも多大な影響を与えた。中でも、バッハがヴィヴァルディの作品を熱心に研究し、その協奏曲をチェンバロやオルガン用に編曲したことは有名だ。

ヴィヴァルディがチェロのために書いたソロ協奏曲は27曲、そしてソナタは9曲あり、チェロのために傑作を残したバッハと同じく、この楽器の独奏楽器としての可能性に関心を寄せていたことがうかがえる。このニ短調の一曲は、激情が迸るトゥッティに独奏チェロが表情豊かなエピソードを挿みながら進む第1楽章、愁いを帯びた旋律を切々と歌う第2楽章、きびきびとした音の動きを交代させる第3楽章のいずれにも、チェロの力強い技巧と歌謡性が効果的に生かされている。

第1楽章アレグロ、第2楽章アダージョ、第3楽章アレグロ。

A.マルチェッロ（1684-1747）
オーボエ協奏曲 ニ短調

映画「ヴェニスの愛」のタイトル・ミュージックに使われて以来、この曲の第2楽章アダージョは大変ポピュラーなバロック名曲として親しまれるようになったが、古くはバッハによるチェンバロ用編曲をはじめ、様々な形で愛奏されてきた曲である。アレッサンドロ・マルチェッロは、ヴィヴァルディと同時代のヴェネツィアで、作曲家としてのみならず数学者、哲学者としても活躍した人物で、弟のベネデットとともにすぐれた作曲家として認められていたが、バッハ編曲の原作者が誤ってヴィヴァルディと考えられていたように、その存在は長い間忘れ去られていた。この曲が正しく紹介されるようになったのも、20世紀になってからのことである。

曲は、第1楽章アンダンテ・エ・スピッカート、第2楽章アダージョ、第3楽章プレストの3楽章からなり、聴きどころの第2楽章では、哀愁に満ちたカンティレーナに施される装飾に、独奏者の個性とセンスが表れるだろう。

A.ヴィヴァルディ（1678-1741）
リコーダー協奏曲 ハ長調 RV443

ヴィヴァルディが活躍した時代は、縦笛のリコーダー（ブロック・フレーテ）が横笛のフルート（フラウト・トラヴェルソ）に取って代わられた時期であり、ヴィヴァルディもこれら両方の楽器のために作品を書いているが、このハ長調の協奏曲は、フルートでいえばピッコロの音域をもつソプラニーノ・リコーダーのために書かれた作品。ヴィヴァルディはこの楽器のために3曲の協奏曲を作曲しているが、いずれも華やかな技巧に彩られた作品となっている。ヴィヴァルディが教えていたピエタ音楽院の少女たちは、一人でいくつもの楽器を演奏したというが、どの楽器も相当の腕前だったらしい。この曲に聴かれる、まるでヴァイオリンのようなリコーダーの機敏なパッセージからも、その技術の高さはうかがえよう。

曲は、第1楽章アレグロ、第2楽章ラルゴ、第3楽章アレグロ・モルトの3楽章構成。分散和音や急速なパッセージを駆使して推進力あふれる音楽が展開される第1楽章や、トリルやトレモロの動きがきらびやかさを演出する第3楽章に対して、第2楽章では哀愁を帯びたメロディに細やかなメリスマが施され、リコーダーの音色が見事に生かされている。

J.S.バッハ（1685-1750）
ブランデンブルク協奏曲 第2番 ヘ長調 BWV1047

バッハは若い頃からアルビノーニやヴィヴァルディの作品を通してバロック協奏曲の研究に精力を傾けたが、その総決算ともいうべき作品が1721年にブランデンブルク辺境伯に献呈された6曲の合奏協奏曲〈ブランデンブルグ協奏曲〉である。多彩な編成と高度な演奏技術を要するこれらの協奏曲は、数多くの世俗器楽曲が生み出されたケーテン宮廷楽長時代（1717〜23）に、すぐれた演奏家を擁するこの地の宮廷楽団のために作曲されたものと考えられている。

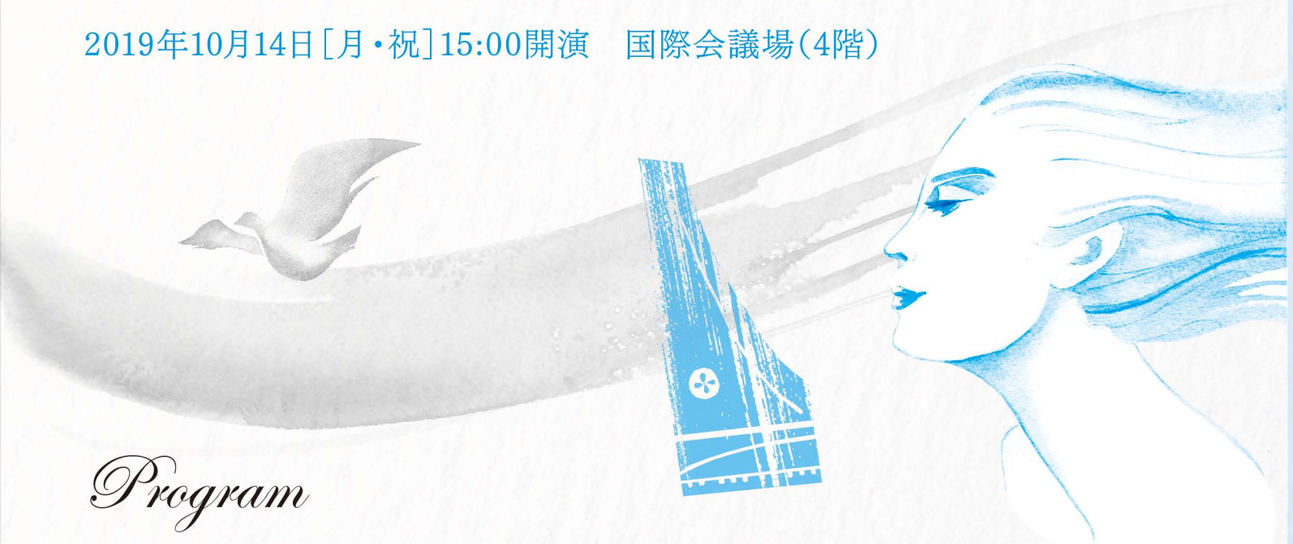
この〈第2番〉では独奏楽器に3つの管楽器が登場し、高音域を高らかに吹き鳴らすトランペットの技巧が冴える、華やかな響きの饗宴となる。典型的な合奏協奏曲のスタイルによる一曲で、独奏楽器群にトランペット、リコーダー、オーボエ、ヴァイオリン、そして総奏はヴァイオリン2部、ヴィオラ、ヴィオローネ、通奏低音（チェロとチェンバロ）の編成。急-緩-急の3楽章で構成され、両端楽章ではトランペットが妙技を見せる。

第1楽章（アレグロ）、第2楽章アンダンテ、第3楽章アレグロ・アッサイ。

新・福岡古楽音楽祭　室内楽コンサート

イタリア歌曲集の魅力
～オペラの誕生からヘンデルへ

2019年10月14日［月・祝］15:00開演　国際会議場（4階）



Program

カッチーニ：アマリッリ Giulio Caccini(1545-1618)：Amarilli mia bella
カッチーニ：愛の神よ、あなたは翼を持ち Giulio Caccini(1545-1618)：Tu ch'ai le penne Amore
カッチーニ：愛の神よ、何を待っているのです Giulio Caccini(1545-1618)：Amor, ch'attendi
モンテヴェルディ：アリアンナの嘆き Claudio Monteverdi(1567-1643)：Lamento d'Arianna

スカルラッティ：トッカータ Alessandro Scarlatti(1660-1725)：Toccata
スカルラッティ：私は心に感じる Alessandro Scarlatti(1660-1725)：Sento nel core
カリッシミ：勝利だ、わが心よ！ Giacomo Carissimi(1605-1674)：Vittoria, mio core!

伝カルダーラ：つれない人よ、たとえあなたが Antonio Caldara(1670-1736)：Se ben crudele
スカルラッティ：すみれ Alessandro Scarlatti (1660-1725)：Le violette
ヘンデル：泣かせてください George Frederic Handel(1685-1759)：Lascia ch'io pianga

出演

メゾソプラノ：波多野睦美
チェンバロ：西山まりえ
バロックチェロ：山本徹
バロックヴァイオリン：廣末真也
バロックヴァイオリン：水谷有里
バロックヴィオラ：松隈聡子

バロックハープ
□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

寄稿：西山まりえ

※諸事情により記載内容が変更になることがありますので予めご了承ください。　※出演者のプロフィールは14～15ページをご参照ください。

Program Notes　曲目解説 ―― 波多野睦美（声楽家）

声楽をはじめる人がまず出会う、《イタリア歌曲集》。広く使われているのは19世紀末に出版された、A.パリゾッティの編曲によるピアノ伴奏付きの楽譜です。ヨーロッパの家庭にピアノが普及していった19世紀、古い音楽への関心の高まりとあいまって、こうした楽譜がパリゾッティ版以外にも次々と出版されたそうです。

声楽家にとって、この曲集は初心者の時期に触れるため「教則本」ととらえられがちです。また、入試や試験の思い出と結びつき、「与えられた課題」のイメージが長く残ります。全音の《イタリア歌曲集》の冒頭に畑中良輔氏が記しています。

これらの古典歌曲の持つ美しさを、ほんとうに理解するには、相当長年の音楽修行が必要なのですが、古典の持つ“様式感”がわかりはじめて来ると、これらの曲は実におもしろいのだということが実感出来る筈です。・・・・・そしてこれらのイタリア歌曲から出発し、その他様々の歌曲やアリアを遍歴して、何年か経ってこれらの歌曲をふりかえる時、はじめお経のようだったこれらの歌が、何にも増して宝石のように純粋な光を放っていることに気づかれるでしょう。これこそ歌の生命でありふるさとなのです。_____「はじめに」より

《イタリア歌曲集》をCD録音するにあたり、高校生の時に使っていた古い楽譜を久しぶりに開き、この言葉に再会しました。

埋もれていたオペラやカンタータに新しい命を吹き込んだパリゾッティの功績は、はかりしれません。古楽器と演奏する《イタリア歌曲集》は、私にとって、バロック音楽の魅力を教えてくれたパリゾッティへの謝意といえます。

・・・・・・・・・・・・・

《オペラ》が産声をあげた16世紀の末、イタリアは一つの国ではなく、小国が群雄割拠する時代でした。“イタリア”が建国されたのはずっと後、19世紀の後半のことです。本日演奏するのは17世紀初頭から18世紀までの約100年間の作品ですがその頃は、フィレンツェ、ヴェネツィア、ローマ、マントヴァ、ナポリなど、都市国家がそれぞれの文化を花咲かせていました。

フィレンツェ、メディチ家の音楽監督だったカッチーニ。その最初の歌曲集『新音楽』(1602)から「アマリッリ」を。素晴らしい歌手でもあったカッチーニの、伸びやかな声が聞こえてくるような旋律です。彼の2冊目の歌曲集『新音楽とその表記法』(1614)からは「愛の神よ、何を待っているのです」「愛の神よ、あなたは翼を持ち」の2曲を。キューピッド（愛の神）を歌った、舞曲風の＜有節アリア＞と呼ばれるスタイルの歌です。

「アリアンナの嘆き」はモンテヴェルディがマントヴァ宮廷のために作曲したオペラ『アリアンナ』(1608)より。唯一現存するこの曲を除き、オペラの楽譜は失われました。物語はクレタの王女アリアンナ（アリアドネ）とアテネの王子テーゼオ（テセウス）の恋と別れ。この歌は、ナクソス島に一人捨てられたアリアンナの＜嘆きの場＞です。

アレッサンドロ・スカルラッティの音楽からは、チェンバロ独奏曲の「トッカータ」、そして独唱カンタータのアリアを。600曲を超えるカンタータが残されていますが、「私は心に感じる」は通奏低音の旋律が印象的な曲です。

スカルラッティとモンテヴェルディの間の世代の作曲家が、カリッシミです。ローマで活躍し、オラトリオの大家となりました。「勝利だ、わが心よ！」は、カリッシミの最も広く愛されたカンタータの中のアリアです。

《イタリア歌曲集》の中でも人気の高い「つれない人よ、もしあなたが」は、カルダーラ作曲か？と真作を疑われているオペラ・アリアです。カルダーラはヴェネツィアに生まれ、マントヴァとローマで仕事をしたのち、ウィーンの宮廷で生涯を終えました。このアリアはオペラ『裏切りに打ち勝つ愛の貞節』(1711)の中で歌われます。

スカルラッティはオペラが盛んだったナポリに移り、『ピッロとデメートリオ』(1694)という作品で成功をおさめます。その中から小さなアリア「すみれ」を。このオペラはナポリ初演ののち各地で再演を続けました。

同じ頃、ヘンデルはイタリアからロンドンへ渡り、翌年にはイタリア語のオペラ『リナルド』(1711)を発表、成功します。ヒロインのアルミレーナのアリア「泣かせてください」はヘンデルの作品中、最も愛唱される曲となりました。その後もヘンデルはロンドンで興行主として数々のオペラ公演を主宰しますが、イタリア語のオペラが観客の興味を失っていくと、“英語のオラトリオ”の作曲に舵を切り、やがて『メサイア』(1741)が誕生することとなります。